

環境に優しい米づくり体験 2024

坂井市立三国南小学校
JA福井県坂井青壮年部三国地区三国支部
三国東部まちづくり協議会
三国木部まちづくり協議会

みんなで 力を合わせた 米づくり

稲刈り



田植え



スイーツ作り





「お米づくりを通して学ぶこと」	
三国南小学校 校長 矢部 正道	1
「米作り農業体験について」	
J A福井県坂井青壮年部三国地区三国支部 支部長 川元 博幸	1
「感謝の気持ちを持って」	
三国東部まちづくり協議会 会長 小河 宗義	2
「米づくり体験からの学び」	
三国木部まちづくり協議会 会長 中林 透	2
「米作りとホテルから学ぶ自然環境について」	
三国木部まちづくり協議会 環境部会長 北出 泰章	3
お米ができるまで私達のきろく photo	
田植え	4～6
稲刈り	7～11
米づくりの思い出 感想文	12～18
お米ができるまで私達のきろく photo2	
スイーツづくり	19～21



「お米づくりを通して学ぶこと」

三国南小学校 校長 矢部 正道

平成元年から始まった三国南小学校の「米作り体験」は、地域の皆様方のご協力もあり、いまま三国南小学校の伝統行事の一つとして残っています。今年もJ A福井県青壮年部の方々と三国木部まちづくり協議会や東部まちづくり協議会の皆様のご協力のおかげで実施することができました。

子供たちは米作りについて、三年生と五年生の社会科授業の中で座学では学んでいます。しかし、実際に田んぼの中に足を踏み入れ、土に触り、苗を植えるという体験を通して得られる知識はとても貴重なものです。現代農業では機械化が進み、耕耘はもちろん、田植えや稲刈りもすべて機械を使って、効率よく作業をしています。ここ三国木部地区や東部地区でも農地の集約化や法人化が進み、大規模な農業が展開されています。そんな中だからこそ、実際に土にまみれた手作業に、大いなる意味を感じています。

子供たちは、この「米作り体験」を通して多くのことを学んでいます。手作業による田植えや稲刈りによって、先人達の苦労や工夫を体感することができています。そして何より、お米一粒一粒の大切さを改めて感じたことだと思います。ふだんは何気なく食べているお米が、これだけの労力によって作られていることに気付くことで、尚一層お米のありがたみを感じ、食料生産の意義を知ったことでしょう。今は、収穫感謝祭(餅つき)は実施していませんが、近年は餅米を使った御菓子作りにチャレンジしています。わたしも頂戴しましたが、とてもおいしかったです。J A福井県青壮年部の方々、そして三国木部まちづくり協議会ならびに東部まちづくり協議会の皆様におかれましては、子供たちのお米作り体験活動のために、様々な準備や田植え後の水田の管理や除草作業、そして稲刈りから精米までの作業等、本当にありがとうございます。そして、今後ともこの貴重な体験の継続に向けて、どうかお力をお貸しいただけたらと思います。本当にありがとうございます。

「米作り農業体験について」

J A福井県坂井青壮年部三国地区三国支部

支部長 川元 博幸

三国南小学校5・6年生の児童が経験した田植えと稲刈り作業は、稲作においてほんの一部であります。稲作は生き物の世話と同じで、毎日のように稲と向かい合い、生育の状況を常に把握し、場合によっては適切な処置をしなければなりません。田んぼの水管理から病気や害虫の対策など知識と経験、そして体力も必要となる大変な作業ですが稲作において最も重要な作業です。

食育の授業を通じて、米作りの楽しさ、収穫時の喜びを体験する事はもちろんですが、一方で大変さも理解してもらえたら何よりです。

そして日本国内の自給率や輸入の事、農業の大切さも勉強してもらえたらと思います。

また、実際に、昔の米作りを体験してみても手作業でする大変さを知り、大変な分収穫の喜び、自然に育ったお米は、より美味しく感じたと思います。

当青壮年部はこれからも、農業体験活動を継続していき、地域と連携した活動を行っていききたいと思います。



「感謝の気持ちを持つて」

三国東部まちづくり協議会 会長 小河 宗義

私が今から五十年以上前の幼少期の頃、家族は稲作を中心に生計を立てている時代でした。農繁期には年齢に関係なく、家族総出で時には親戚の人の手を借りて農作業をしたものです。周りの水田にも多くの家族みられました。秋には家族で収穫に感謝していました。そういう気持ちは、多くの家族がそうだったと思います。その頃は今のよう機械化も進んでおらず、田植えや稲刈りもすべて手作業で行う時代でした。農作業を通して家族のつながりも強かったように思います。また、祖父母には「米という字は八十八と書くが米を作るのには八十八の手間がかかっているの、米を粗末にするな」とよく言われたものです。茶碗には米一粒も残さずに食べることをよく言われました。ですから出されたものは、好き嫌いなく食べるという習慣は今でも生かされていると思っています。さて、現代では農作業も一変し、大型機械や自動機械が導入され、大規模集団での営農化が進み、個人農家が少なくなっていく時代で、昔の面影はなくなり、稲作農家の子供も水田に入ることもなくなりました。この「米づくり体験学習」を通して米づくりの苦勞にふれることは、大変有意義な機会だと思います。ご飯を口にするときには収穫に対する感謝の気持ちが芽生えれば、関係者も大変喜ばしいことだと思います。最後に長年地元小学生の体験学習に携わってくれている方々に、感謝するとともに、この学習が継続されることを願っております。

「米づくり体験からの学び」

三国南小学校児童のみなさん「米づくり体験学習」大変ごころうさまでした。

田んぼは、子どもたちにおいて、巨大な泥んこ広場でもあり、つまさきに感じる冷たい水、直後に足の裏で感じる泥、田んぼに踏み入れた足が沈み込むと思わずぐらつく体のバランス、そんな田んぼのなかで子どもたちは苗を植える作業だけでなく、体全体を使って普段の生活では経験することの少ない感触や動きを楽しむことができ、米作りの大変さや苦勞など、身をもって体験できたのではないかと思います。

子どもの頃に経験したことは、その後の成長に大きな影響を与えます。スポーツや能力を伸ばす教育も大切ですが、子どもの人間性を育むために欠かせない教育が「食育」です。

米作り（農業）体験で、子どもたちの思い出になるだけでなく、「体験型の食育」として大きな意味を持っています。

「米」という字は、「八十八」の組み合わせです。お米ができるまでには八十八回の手間（土づくり、苗づくり、田植え、収穫）がかかることから、この漢字ができたといわれ、米づくりの苦勞が表れています。

農家の人たちは、田植えの前には、籾（もみ）を発芽させ、田んぼへ植えられるように苗を育てておきますし、水を張った田んぼの土を混ぜて苗が育ちやすいように泥を平に整える準備（しろかき）が必要です。

また、田植えが無事に終わってからも、肥料を与えたり、虫や病気から稲を守ったり、台風の被害を防いだりといった重要な作業が稲刈り前まで続きます。ようやく実りの時期を迎えると、稲刈り、乾燥・調整をして、待ちに待った玄米の状態になり保管をします。みなさんが、毎日口にするごはんは、農家の人たちのこれだけの仕事があつて、初めて食べられるものなのです。

体験された田植えは、私たちの主食を支えるお米が育つための初めの大きな一歩です。食べ物大切にすることを育みながら、自然を体いっぴいに感じることもできる学びの場として、今後も継続されることを願っております。

最後に、「米づくり体験学習」にご尽力いただきました関係者の皆様に心から感謝申し上げます。



「米作りとホタルから学ぶ自然環境について」

三国木部まちづくり協議会 環境部会長 北出 泰章

三国南小学校の米作りが、今年も地域の皆様のご協力のもと行われました。36回も続く恒例行事となったことは、関係者の方々のご尽力の賜物と改めて深く感謝申し上げます。

さて、木部まちづくり協議会ではホタルを核として、学校田のあるビオトープ公園の再生に取り組んでいるところですが、学校への出前授業等、学校とともに進めるホタルプロジェクトも3年目を迎え、3月には初めてホタルの幼虫の放流会を5年生参加のもと開催できました。

その学校田での米作りは、田植え、稲刈りともに手作業で行った貴重な体験です。大変だと感じるとともに、土や水、太陽の力を感じたり楽しさを知ったと思います。このホタルが住める環境で米作りをした思い出は、参加した皆さんに自然と地域の絆を考えるきっかけになったと思います。

最後に、このような行事が今後とも継続して続けられるよう、心から願っています。



田植え







2024年
5月15日





稲刈り



2024年
10月4日









思以出作文





石川 柊斗

初めての田植え体験では、土がどろどろしていて気持ち悪かったけれど、うまく真つすぐになえを植えることができました。みんなでやった田植えは楽しかったです。いろいろな虫がいてこわかったけれど、しっかりやりました。大変でしたが、また来年も田植えをやりたいです。

伊藤 圭香

初めての田植えでとてもドキドキしました。お手本を見ていて簡単そうだと思っていましたが、やってみると冷たくべちゃべちゃしていて前に進めなかつたです。田んぼの中に虫がいたり、転びそうになり、田んぼの中にひざが入ってしまったけれど、最後には慣れて楽しかったです。良い体験が出来ました。

井上 美紅

私たちが植えたもち米で二つの食べ物を作りました。一つ目はおはぎです。あんこがもち米になかなか引つ付いてくれなくて大変だったけれど味はとてもおいしかったので、二つ目はいちご大福です。おはぎとは違ってラップにもち米がくっつくので大変でした。どちらも大満足だったので良かったです。

今野 洵

もち米を使って、おはぎといちご大福を作りました。おはぎ作りでは、もち米がぬるぬるしていて、もち米を俵型に形を整えるところが難しかったです。ラップでくるむ作業が楽しかったです。いちご大福作りでは、もち米とあんこを平らにする作業が大変でした。どちらもとてもおいしかったです。

上坂 優月

稲刈りでは、最初は稲がもさもさしてこしょばかつたけれど、だんだん楽しくなつてもっと刈りたいなと思えました。刈つてある稲を機械で脱穀するときは、機械の力が強くて引つ張られました。その後、はさがけという稲をつるす作業をしました。六年生は二回目なので、はさがけも稲刈りも脱穀も上手でした。

上田 海杏

初めての田植えでは、昔の人たちの植え方を体験しました。最初は足場がどろどろしていてとても歩きにくかつたけれど、だんだん慣れてきてとても楽しかったです。「みんなで植えた稲で何を作ろうかな」と考えながら、楽しく稲を植えることができました。また、できる機会があったらやりたいです。



梅嶋 妃茉莉

初めての田植えで、最初はうまくできるか心配でした。説明やお手本を聞いてみると、自分もできそうだなと思いました。田んぼに足を入れてみると、足が気持ち悪くて最初は慣れなかったけれど、後半からは慣れてすらすらと苗を植えることができました。その後も上手にできてよかったです。

江戸 都菜子

わたしたちが植えて育てたもち米で、おはぎといちご大福の二つを作りました。おはぎ作りでは、もち米をつぶさずに作りました。もち米をすしのしやりみたいに丸めました。ねちよねちよしていたのでまとめるのがむずしかったです。来年もわたしたちが育てたもち米でまた調理をしたいです。

江端 愛生

稲刈りでは、軍手をつけて稲を刈るのが楽しかったです。刈った後に脱穀がしやすいように稲をそろえておくことを意識して作業をしました。脱穀では稲をお米とお米がついていた棒の二つに分けました。機械の使い方に慣れてきて、最後は教えてもらわずに一人でできて、うれしかったです。

大井 菜奈

秋に稲刈りをしました。稲が意外と硬くて驚きましたが、何回か刈っていたらうまく刈れるようになっていきました。脱穀では、回っている機械に稲を入れるとお米が一気に取れて楽しかったです。その次は、はさがけをしました。結ぶ束を下に置いて、ばってんにして結ぶとやりやすいことが分かりました。

蔭山 湊

もち米を調理して作ったのは、いちご大福とおはぎです。おはぎ作りでは、あんこで俵型のもち米を包むのが難しかったです。あんこの甘さにもち米のもちもちがからみあって、とてもおいしかったです。いちご大福を食べてみると、甘ずっぱくてもちもちで、おいしかったです。次は、よもぎもちを作りたいです。

金森 奏太

稲刈り体験はとても楽しかったです。最初はとまどったけれど、だんだん慣れてきて、お米がどんなふうになられるのかがよくわかりました。ぼくたちが食べているごはんは、農家さんたちががんばって作ってくれていることがよくわかりました。



金牧 龍哉

収穫したもち米を使って調理をしました。気を付けたことは、もち米とあんこをつぶさないことや、量を同じにすることです。僕はいちご大福を作るのを失敗してしまいました。片栗粉を付ける量が少なかったからだと思います。来年も収穫したもち米を使って、ちがうものを作ってみたいです。

國兼 果朋

初めて稲刈りは少しむずしかったけれど、友達がサポートをしてくれてだんだんやり方が分かってきました。脱穀するのが少しむずかしかったけれど、友達や農家の方がコツを教えてくれて、うまくできたので良かったです。六年生になるので、来年はもっとがんばって稲刈りをしたいです。

桑島 さくら

家庭科の時間に自分たちで育てたもち米を使って、おはぎといちご大福を作りました。おはぎ作りでは、こしあんをたくさんつけて作りました。いちご大福作りでは、もち米をつぶしたものを下ににして、その上にこしあんといちごをのせました。初めてのもち米を使った調理はとてもおいしかったです。

小八木 雅也

初めての田植えで何をしていたのかわからなかったけれど、JAや農家の方に丁寧に説明していただいたおかげで楽しく田植えをすることができました。JAの方は田植えの前にわざわざ学校に来てくれて、米作りについて教えてくださいました。田植えはとってもいい体験になったので来年も田植えをがんばりたいです。

小八木 結斗

稲かりでは脱穀や、刈った稲を干す作業をしました。脱穀では稲を刈る係から受け取った稲を、機械を使って米と草とに分ける作業をしました。稲の束を直接けるのでとてもこわかったです。稲刈りはとても大変でしたが来年も楽しみです。

斉藤 大和

もち米を使っておはぎ作りをしました。最初はもち米がねちゃねちゃして気持ち悪くてずっとおどろいていましたが、いつの間にかこねるのがうまくなっていました。みんなは最初からできていたけれど、僕だけ途中からできました。うまくできて良かったです。



慈道 美苑

自分たちで田植えをして稲刈りをして、やっとできたもち米で調理をしました。失敗しないように説明をしつかり聞いて、丁寧に作りました。食べたらとてもおいしかったです。お店で売っているものは、きつとたくさん時間をかけて苦労しておいしいものを作ろうと努力しているのだなと改めて思いました。

新谷 泰生

自分たちで作ったもち米でおいしいスイーツを作れたのがとてもうれしかったです。それもJAや農家の方々のおかげだと思います。春から秋まで毎日毎日お米の状態を見てくださいのおかげでいちご大福やおはぎができたので、感謝していただきました。本当にありがとうございました。

徳田 陽真

田植えでは、稲を田んぼに植えるのに苦戦したけれど楽しかったです。どろでねとねのとこころにくもやカエルがいてこわかったです。だんだんうまく田植えができるようになって、自分の成長を感じました。うれしかったです。

中垣内 樹

もち米を使っていちご大福やおはぎを作りました。やってみると案外簡単で楽しかったです。いちご大福では、ラップに片栗粉を付けたけれどうまくはがれず、ラップにくっついたままになってしまいました。おはぎではタッパーの中で形がくずれてしまったけれど、おいしくできました。来年も楽しみます。

中島 望心

もち米の調理でいちご大福を作りました。ラップの上に、もち米、あんこ、いちごの順番において、もち米であんこといちごを包むようにしてもち米を丸くしました。完成して食べてみると甘いあんこ、もちもちしたもち米とすっぱいいちごが合わさってとてもおいしかったです。また食べたいです。

中島 凜玖

田植えをして、稲刈りをしてできたもち米を使って調理をしました。最初は、もち米を使っておはぎを作りました。あんこもち米が合っておいしかったです。次はいちご大福を作りました。これもすごくおいしかったです。また来年もみんなで田植えなどをして何かを作って食べたいです。



中田 悠晴

初めての田植えでは、靴下で田んぼの中に入るということにびっくりました。最初は入るのがいやだったけれど、勇気を出して足を入れてみると、慣れてきて逆に楽しくなってきました。たくさん稲を植えられました。来年もまたやりたいです。

中野 來海

おはぎといちご大福を作りました。おはぎは、もち米をつぶさずに丸めてあんこをのせて作りました。もち米を使ったのでとてもおいしかったです。いちご大福は、もち米をつぶして中にあんこをのせて作りました。おはぎよりも難しかったです。六年生になったらまた違うものを作って食べてみたいです。

中本 孝志郎

田植えをしてみて、農業の大変さを身をもって知ることができました。僕は田植えをしたのは初めてだったけれど、楽しくできたのでよかったです。今年は何回か転んでしまったので来年は転ばないようにがんばりたいです。

西川 琥大

植えをしてみて、一歩田んぼに足を入れるととてもぐちゃぐちゃで、気持ち悪くて、「うえー」と言っていました。だけど、後から慣れてきました。苗を投げてくれたのが、僕の手前で落ちて顔にどろが付いてしまいました。楽しくできてとってもうれしかったです。

長谷川 望

初めて田んぼに足を入れたとき、ぬるつとして不思議な感じがしました。手で苗を植えるとだんだん腰が痛くなってきた、昔の人の大変さが分かりました。米作りにはたくさんの方が関わっていることを知りました。これからも感謝してお米を食いたいです。

林 真維子

収穫したもち米で、いちご大福とおはぎを作りました。おはぎ作りでは、あんこでもち米を包む作業をしました。ラップを使ったので、もち米を上手に包むことができました。いちご大福作りでは、ラップの上に片栗粉を付けたもちをのせたら、くっついてしまいました。とてもおいしかったです。



古市 湊也

稲刈りでは、稲を刈って、脱穀して、はさがけて、いろいろな作業をして大変でした。稲刈りは、刈った稲をはさがけの人に持っていく作業を繰り返し大変でした。脱穀機は、ブーンと音を出してもち米をとっていました。すごいいいと思いました。もち米作りは、とても楽しかったです。

古木 勘太郎

田植えは、泥がべちゃべちゃで気持ち悪かったけれど、なぜか慣れてきました。感覚もだんだんつかんできて、きれいに苗を植えることができました。田植えのやり方を教えてくださった方々もとても優しく、またやりたいという気持ちになりました。六年生でも米作り体験がとても楽しみです。

三枝 雷蔵

稲刈り体験では、かまで稲をザクザクと切る作業をしました。僕は大体三十から四十くらい稲を刈り取りました。その後、取った稲を結んで丸太に固く結びました。次に、稲の先についている米を、脱穀機を使ってきれいに取りました。それを見て、「早くもち米を食べたいな」と思いました。

室 瑠惺

稲刈りでは、みんなとたくさん稲を刈っていました。そして、脱穀機を使って米の実をたくさん集めました。最後に、はさがけという、稲を結んで木にかける作業をしました。六年生になっても、米作り体験をしてもち米を作りたいです。

湯下 楓花

田植えでは、初めは「どろどろしていて田んぼの中に入りたくないな」と思っていました。やってみると、苗を植えるのが楽しくなり植えるのに夢中になりました。苗を植えるときに深く植えることを意識しました。田植えはとても楽しくいい思い出ができました。貴重な体験ができてとてもうれしいです。





スイーツ作り







…私たちも児童の米づくりを応援しています…



三国支店 〒913-0021 福井県坂井市三国町楽円 54-4-2
TEL.0776-82-0344 FAX.0776-82-0417

農事組合法人

みのり会

代表理事
橋 爪 裕 治

〒913-0021
福井県坂井市三国町油屋22-16
TEL : 0776-82-4239
FAX : 0776-82-7990



さんさん池見
SunSun Ikemi

農業法人 有限会社
さんさん池見
〒913-0024 坂井市三国町池見115-1
TEL : 0776-82-3345
FAX : 0776-82-3343
E-mail : okome@sansanikemi.jp

農事組合法人
アグリ川崎

〒913-0025
福井県坂井市三国町川崎 111-1
TEL : 0776-58-7090
E-mail : agurikawasaki@gmail.com

みんなで力を合わせた米づくり体験集

発行日 2025年4月

編集・発行 坂井市立三国南小学校 / JA 福井県三国支店 / JA 福井県坂井青壮年部三国地区三国支部 / 三国東部まちづくり協議会 / 三国木部まちづくり協議会